気象業務能力向上
Reinforcement of Meteorological Services

継続

対象国の条件 : 世界気象機関加盟国

研修コース番号 : J1804232　　**案件番号 :** 1884484

主分野課題 : 水資源・防災/気象

副分野課題 :

使用言語 : 英語

案件概要

本研修は、世界でも先進的な気象予測技術を誇る気象庁の協力のもと、数値予報・気象衛星・気候情報並びにこれらを活用した気象情報作成手法の習得を目的とし実施しており、途上国の気象業務能力向上及び防災能力強化への貢献が期待される。

目標／成果

【案件目標】
各国気象機関において、数値予報、気象衛星、気象情報等の気象データを活用した気象業務能力向上のための取組みが進められる。

【成果】
1.気象業務の基本的知識を習得し、災害発生時に気象業務が果たしうる役割を理解する
2.数値予報や気象衛星等の概要を理解する
3.数値予報や気象衛星等を用いて、ユーザーニーズに即した気象情報の作成方法を理解する
4.気候・地球環境情報の作成方法を理解し、ユーザーに対して説明することができる
5.自国の気象業務改善のための基本的な計画をアクションプランにまとめる

対象組織／人材

【対象組織】
気象業務に携わる政府機関または関連機関

【対象人材】
1.世界気象機関（WMO）の分類による Meteorologist（気象学者）であること
2.現在政府もしくは政府系機関にて気象業務に従事していること
3.理学士もしくは工学士であること
4.40歳以下であること
5.気象業務の十分な経験があること
6.汎用のソフトウェアに習熟していること
7.十分な英語能力を有すること
8.心身ともに健康であること

内　容

１．数値予報、衛星気象等、気象業務の基盤技術に関する説明ができる。
数値予報の基礎、数値予報データ利用に関する講義／気象衛星業務概論、気象衛星データ利用に関する講義／国際的な気象データ通信に関する講義
２．数値予報、気象衛星等、気象業務の基盤技術をもとに、各国のニーズに即した気象情報を作成できる。
衛星データ利用に関する実習／予報業務に関する実習／各国のニーズに即した気象情報作成に関する講義
３．気候情報（地球環境情報を含む）を利用して、各国のニーズ、気候の実況解説、気候予報の作成ができる。
気候・地球環境情報に関する講義／気候・地球環境情報の利用に関する実習
４．自国の気象業務改善のための基本的な計画が策定されるとともに、自国で活用される。
ファイナルレポート（気象業務改善計画を含む）の作成、プレゼンテーションとディスカッション／ファイナルレポートに基づく、所属組織における気象業務改善への取り組み（質問票によるフォローアップ調査：事後）
【事前活動】質問票、カントリーレポート、
プレゼンテーションの作成
【本邦研修】主に以下の内容の講義、実習等を行う。
1.数値予報の基礎・数値予報データ利用に関する講義、気象衛星業務概論、気象衛星データ利用に関する講義、国際的な気象データ通信に関する講義、衛星データ利用に関する実習、予報業務に関する実習、各国のニーズに即した気象情報作成に関する講義、気候・地球環境情報に関する講義、気候・地球環境情報の利用に関する実習等
2.アクションプランの発表、ディスカッション
【事後活動】特になし

本邦研修期間	2018/9～2018/12
担当課題部	地球環境部
所管国内機関	JICA東京（経済環境）
関係省庁	気象庁
実施年度	2017～2019

主要協力機関	気象庁
特記事項及びホームページ	http://www.jma.go.jp/jma/indexe.html